

かわさきパラムーブメント推進フォーラム これまでの議論のポイント**□将来を担う子どもたちへの取組について**

- ✓ 1964年に自分たちが味わった感動を、子どもたちにも経験してほしい
- ✓ 子どもを対象とした取組は、子どもから親へ、そして地域への理解の広がりの可能性が大きい
- ✓ 教育課程にパラリンピックの理解を組み込むことは重要である

□パラスポーツの普及に向けて

- ✓ TV放送が少なく、パラスポーツの醍醐味がまだ伝わっていない
- ✓ パラリンピックの成功に向けては、裾野の拡大が欠かせない
- ✓ 認知度を高めるにはパラスポーツの「かっこよさ」を伝えることがポイント。「かっこいいな」から「体験してみたい」へと発展する
- ✓ ボッチャやフライングディスクなどは、スポーツが苦手な子どもも楽しめる。高齢者の生涯スポーツとしての可能性もある。地域交流のツールにもなる

□インクルージョン、共生社会の実現に向けて

- ✓ 日本人はすぐに分けたがるが、「障害者だけ」ということではなく、皆で一緒にという環境づくりが大切
- ✓ 障害だけではなく高齢者、外国人、子ども、女性、LGBTなどパラムーブメントの対象を幅広く捉えることで共感が広がる
- ✓ 人はカッコよくて、ワクワクするものに心が動く。スポーツやエンターテインメントをきっかけに、心を変えて助け合う社会づくりを進めていければよい

□長期的で着実なムーブメントへの展開に向けて

- ✓ サステナビリティ（持続性）が政策の根幹にあるべき
- ✓ 地域の中で、日常的な取組として根付かせることを考える
- ✓ 市民とリアルにインタラクティブにやっていくことが大切
- ✓ 既存のイベントや事業等の川崎に既にあるリソースや持ち味を活かすことが重要
- ✓ 民間と連携し公費を使わないということも市民にとっては重要な視点
- ✓ 企業としてのメリットが見えないと、長期にわたって対応できない。社会の中の活動の一部としてビジネスでやっていけるモデルを構築することが重要
- ✓ 点でやっているそれぞれの活動を線にし、さらに面に広げていく。横串の連携も重要

- 
- プロジェクトづくりに向けた基本的な考え方として共有
 - かわさきパラムーブメント推進ビジョンに反映